

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	神埼市立脊振小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・児童一人一人の特性に応じた学習指導など個別指導の工夫に努め、児童の学力向上や主体的に学習に取り組もうとする態度の育成を目指してきた。今年度は、児童の主体的な学びや基礎的・基本的な学力の向上に引き続き力を入れていきたい。</p> <p>・互いを認め合い、誰もが安心して学校生活を送れる安定した支持的な風土は確立されつつある。今後は、自分のために、学校のために、地域のために何ができるのか、何をすべきなのかを自ら考えて行動できる児童の育成を目指していきたい。</p> <p>・豊かな自然や心温かい地域の方々に支えられ取り組んだ体験学習や交流活動を通して、児童一人一人の感謝の気持ちやそれを表現する態度は高まってきた。今後は「人材バンク」の更なるアップデートを図り、中学生や地域の方々と連携を深め、脊振のよさを発信していく学校づくりに努める。これらの活動や交流を通して、郷土や学校を愛する、誇れる児童を育成していきたい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	脊振を愛し 進んで学ぶ たくましい子どもの育成
----------	-------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①「自ら学ぶ力」を育み、学力向上を実現する。(ICT利活用の推進、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実)</p> <p>②全ての学習と活動に目標をもたせ、成果や過程を価値づけて、自主性を育てる。</p> <p>③学校の魅力度UP! 「脊振で学ぶといいことあるよ」を子どもの姿で実現する。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○指導方法の工夫・改善、ICT活用等を図り、学ぶ楽しさを実感する授業の実現を目指す。	○話し合う活動を通じて、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う」と回答した児童を80%以上	・一人一台端末を適切に用いて、児童が自分にふさわしい学び方や学習方法を身に付けることができるようにする。 ・「脊振小授業スタイル」の中での対話的な活動の充実を図る。 ・朝読書だけでなく、空き時間などにも積極的に読書の時間を取り入れるようにし、一人年間貸出冊数の目標を達成する児童が7割を目指す。			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○神埼市の「四か条の誓い」や脊振小の「石の門の教え」をもとに、感謝の気持ちや礼儀正しさ、思いやりの気持ち等を育むために、教育活動全体を通して繰り返し指導し、90%の児童が生活の中で意識して実践できるようにする。	・人権集会・教室の実施 ・全校で「ほかほか広場」(友達の良い行動の紹介)に1年間通して取り組み、定期的に児童からカードを紹介する時間を設け、友達の良さ見つけへの意識を高めていく。 ・人権・同和教育についての職員研修を行う。 ・「ふれあい道徳」を通じて、保護者や地域の方々にも本校の道徳教育の実態を知ってもらう。							人権・同和教育主任(田川) 道徳科主任(坂田)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止について組織的対応ができていると回答した職員が90%以上	・毎月1回、全職員で児童の様子を共有するための連絡会を行い、組織での対応を進める。 ・月に1回心に関するアンケートを実施し、気になる児童の早期発見・対応を図る。							生徒指導主任(真島) 教育相談主任(石田)
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した児童90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・児童の得意なこと、がんばっていることを披露できる場を設けることで、自信を持ったり、達成感を味わうことができる機会を作る。 ・スピーチタイム等で将来の夢や目標をテーマに設定し、自分の夢や目標について考えたり、友達の話を聞く機会を作る。							
○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	・							
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ②「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身につけている児童70%以上 ③「健康に良い食事をしている」児童70%以上 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ⑤「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童70%以上	・保健体育委員が中心となって、スポーツイベントを開催する。その際に、運動や遊びを推奨する声かけも行う。 ・毎朝の健康観察時に朝食後の歯磨きの有無を確認し、歯磨きの習慣化を図る。 ・早寝・早起き・朝ごはんに関する保健指導、アンケート調査を行い、望ましい生活習慣の形成を図る。 ・避難訓練において、児童及び職員の動きの理解を図り、状況に応じた避難を実践させる。 ・自身の健康に関する意識調査および指導を行い、生活や行動を振り返る機会を設ける。							体育科主任(原口) 養護教諭(石田) 安全教育担当(坂田)
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	・							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日を設定したり、日々の目標退勤時間を決めたりすることでそれぞれのタイムマネジメント力を高める。 ・連絡掲示板を新たに設け、連絡会や職員会議等の時間削減を行うことで、業務の効率化を図る。 ・業務内容について職員で話し合い、スリム化及び担当事務の平準化を図り、年休を取得しやすい環境づくりを行う。							教頭・校長
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	・							
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上(特別支援教育)	○特別支援教育についての研修を深め、学級の指導にいかしているアンケートで回答した教職員が90%以上	・特別支援教育に関する研修会を計画的に実施する。 ・家庭、福祉、医療などの関係機関と連携し、必要に応じてケース会議を行う。							特別支援教育担当(田川)

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------